

おぐらはらにしいせき

小倉原西遺跡

(相模原市No.283 遺跡)

調査期間 20101116～20120131

所在地 相模原市緑区小倉

時代
旧石器
縄文
奈良・平安
中世
近世



作成日:20110331 更新:20120427

概要

本調査は、国土交通省相武国道事務所による、さがみ縦貫道路建設事業に伴う発掘調査です。調査地は小倉原西遺跡(相模原市No.283 遺跡)の西寄りの部分に該当します。

遺跡は相模原市域の北西部、JR線橋本駅の西方約5kmの地点に位置します。地形上は相模川右岸の河岸段丘上に立地し、この段丘を挟んだ南側には相模川の支流である串川が流れています。遺跡の海拔標高は120～123m程度を測ります。

小倉原西遺跡では、1980(昭和55)年に縄文時代の配石遺構が発見され、最初の発掘調査が行われています。以来、縄文時代を中心に複数の時代にまたがる遺跡として認識されてきました。今回の発掘調査は平成22年度より継続して実施しており、平成23年度の調査では、近世の耕作址や土坑墓群、古代の土坑・溝、縄文時代の土坑・集石・ピット、旧石器時代の石器集中地点が検出されました。遺物は近世の陶磁器、縄文時代の土器・石器、旧石器時代の石器などが出土しています。

今年の1月いっぱい発掘作業を終了し、その後出土品等整理作業を行っています。今後、作業成果をまとめ、発掘調査報告書を刊行することで発掘作業から始まった全ての作業が終了することになります。

現在は、旧石器時代の石器について、接合作業を行って



▲ 石器出土状況



▲ 石器接合作業

います。土器の接合・復元は、元の形の復元が目的ですが、石器の接合は当時の人々の石器製作技術や製作過程の復元と言ってもよいかもしれません。

また、黒曜石については、科学的な分析にかけることで、石自体の産地が分かり、当時の人たちの黒曜石入手ルートや交易範囲などを知る手がかりとなります。

今後は、製品として仕上げられている石器の実測など、図化作業を進めていく予定です。



▲ 石器接合状況



▲ 土器接合状況